

日本発グローバル人材

育成プログラム 独自の英語研修

米半導体大手マイクロン・テクノロジー傘下のマイクロンメモリジャパンは、「日本発」のグローバル人材を育成する。英語力やリーダーシップの向上につながる独自の研修システムを整えた。同社は米マイクロンが旧エルピーダメモリを買収して生まれた。半導体市場の活況で人手不足が続くなか、充実した研修で優秀な人材をひき付けると同時に、世界で活躍できる人材の育成につなげる。



全社員の3分の2が独自プログラムの英語研修を受講する

リーダーシップも伝授

米マイクロンは旧エルピーダメモリーの買収を2013年に完了した。英語研修は14年にスタートさせ、これまでに約5億円の費用をかけた。全社員の3分の2にあたる延べ約2300人が受講。1年間参加した社員は、研修以外のサポート体制も充実させている。広島の工場（広島県東広島市）や相模原市の拠点にはネ

マイクロンメモリジャパンの 主なキャリア開発制度	
▽リーダーシップ研修	一般社員から幹部クラスまで5階層に分かれたリーダーシップ開発プログラム
▽英語研修	実務に合わせたレッスンを独自開発。日本で延べ2300人が参加
▽技術研修	技術セミナーや論文発表を通して技術者のキャリア形成を支援。日本独自の技術セミナーも開催

1段階以上のレベルアップを果たしたという。研修は現場での実務に合わせた作り込んだオリジナルのプログラムで構成。例えば顧客との折衝や決算説明会の対応、半導体技術に関するやりとりなどをネイティブの講師がマンツーマンや少人数制で教える。研修以外のサポート体制も充実させている。広島の工場（広島県東広島市）や相模原市の拠点にはネ

事を担当する権村哲治は、人事評価制度や給与体系も米マイクロン流が浸透している。買収に合わせた制度や運用を全面的に見直した。「年齢や勤続年数でなく能力で評価する考え方が浸透した」という。給与は「優秀な人に来てもらうため、市場価値を意識して対価を払うようにした」（権村氏）。社員の給与が採用市場で競争力のある水準にあるかを毎年調査し、給与の見直しにつなげているという。

マイクロンメモリジャパンの事業は好調だ。ただ、半導体の激しい国際競争を勝ち抜くには優秀な人材の獲得や育成が欠かせない。国内でも技術者などの争奪戦が激しくなっており、充実した研修制度などをアピールすることで、転職市場などでの採用競争力の向上につなげる。（龍元秀明）